
クローズハーツ

カラクリ騎士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クローズハーツ

【Nコード】

N9533F

【作者名】

カラクリ騎士

【あらすじ】

遙かに進んだが、わずか数日で滅んでしまった文明。流砂となった大地。その上に作られた新たな大地。そこにそびえるのは古代文明が残した無数の都市。そして都市が同盟を結ぶことによって生まれた3つの国。対立する国々の目的。絡み合う人々の欲望。生まれた魔物。世界を襲う謎の生物。——生きることを諦めた少年と感情と記憶を無くした少女が、学園都市を舞台に世界の真の姿を知る。そして場所が変わり新たな命が紡がれることにより、一度止まった世界の針が——再び時を刻む。

プロローグ「残された心の傷」

月が神秘的な光で地上を照らす夜。その光に包まれるのは、崩れ落ち煙を吹き上げる建物。ひび割れ、裂け、人が歩くこともできなくなった道。そして瓦礫の傍らには人の山。ピクリとも誰も動かずに静寂な時が過ぎていく。

「パパー！ ママー！！」

命が死に絶えた都市。そこで動く唯一の生者。それは五歳になったばかりのレイキール、ただ1人。都市を襲った無数の魔物。その牙から逃げる最中に見失った両親の名前をレイキールは必死に叫ぶ。

「……………あれ？」

ふと気がつくと、遠くから獣の咆哮が聞こえてくる。咆哮は徐々にレイキールの背後から迫ってきた。

「……………？」

足下に転がっていた長めの木の棒を拾い上げ、意を決してレイキールは振り向く。

そこにいたのは爬虫類特有の細長い体と煌めく新緑の鱗。鎌のような鉤爪に、食らいついた獲物を切り裂く白銀の牙。そして青空のような薄い羽。それはこの世界の食物連鎖の頂点に輝いている者——竜族の亜種ワイバーン。

「グルルルル……」

ワイバーンは喉を鳴らし、その透き通るような琥珀の瞳でレイキールの小さな目を覗き込む。深い深い琥珀の瞳。覚えのない恐怖が背筋を這う。一刻も早くこの場を去ろうと、ゆっくりと足を摺りながら後ろへ下がる。

一步。また一步。慎重かつ迅速に。レイキールに合わせるようにワイバーンの体が動く。

ワイバーンに追いつかれたら死んでしまう。幼いながらもそれは理解している。永遠に続くかと思った鬼ごっこ。

トン。

何か柔らかい者にぶつかった。何だろう？ 顔を上げると険しい顔をした男性が立っていた。

「あ……」

自分以外で生きている人がいた。その事実緊張の糸が切れレイキールはへたり、と座り込んだ。男性はそんなレイキールに目もくれずワイバーンをの方を険しい目つきで見ている。

「天命を定めし蒼天の羅針盤よ。死の運命に逆らう愚者に死へと導く聖炎の鎖を！」

男性が槍を取り出して声高々に叫ぶ。言葉の意味はわからないが、恐怖から解放され臉が自然と下がっていく。

「ヘブンフレイム！！」

地を照らす白炎。炎は鎖のようにワイバーンの体に巻き付き締め上げる。悲鳴を上げ倒れるワイバーンの姿を最後にレイキールの意識は、プツリと途切れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9533f/>

クローズハーツ

2011年1月12日23時32分発行